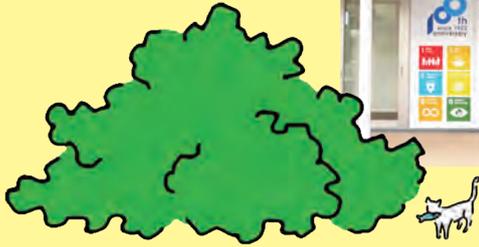
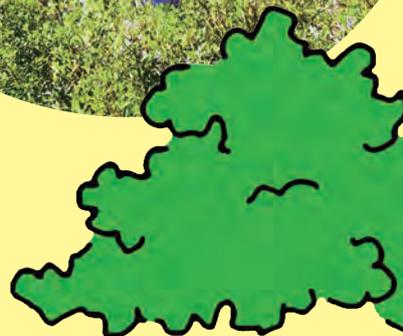




SUSTAINABLE

CAMPUS REPORT 2020

Mejiro University and Mejiro University College



目白大学・目白大学短期大学部



2020年度はコロナに始まりコロナに終わった年でした。入学式の中止、遠隔授業の実施、各種行事の中止など、これまでに経験したことのない状況の中で教職員も学生も大変な1年を過ごしてきました。しかし、その2020年度の始まりのとき、私たちに数少ないワクワク感をもたらしてくれたのが新8号館(百年館)の完成でした。ただ、残念なことに完成と同時期に遠隔授業に移行したことによって、ここで授業を行うことはお預けとなってしまいました。この「百年館」という愛称は、新8号館が2023年に創立100周年を迎える目白学園の象徴だというだけでなく、ここを起点としてさらなる発展を目指したいという多くの「目白人」の願いを示しています。省エネや周囲との調和、機能性等を重視した未来型の建物であると同時に、教育や学修の便を図る設備の数々が、目白大学のサステナビリティを推進していくことを期待しています。

> TOPICS

新8号館(百年館)完成

目白学園創立100周年を記念して、2020年3月、本学新宿キャンパスに「新8号館(百年館)」が完成しました。緑豊かなキャンパスに映える温かみのある木目調と現代的なデザインが印象的な新校舎は、地下2階地上5階建て。既存の1号館と10号館を3階と地下1階とつなぎ、校舎間の回遊性向上を図っています。1階～3階の各フロアには学生が気軽に利用できるラーニングラウンジを確保して、自主学習やコミュニケーションを活性化します。講義室の仕切りはすべてガラス張りで明るく開放感があり、学習意欲と参加意識を高めます。4階・5階の研究室前の廊下はオープンスペースとして研究活動と対話の機会を広げます。百年館は学内各棟をつなぐハブ棟として学部学科を超えた交流を創出するとともに、さらに環境への配慮とSDGsへの取り組み強化のための新たな拠点となることも期待されています。全館にWi-Fiを完備して遠隔授業に完全対応。人感センサー、LED照明、昼光センサー照明を導入、高効率ヒートポンプ空調機、ナイトパーズ付全熱交換機、Low-E複層ガラスを採用、バランス式重力換気窓を利用した自然換気など、自動扉にはSDGsのステッカーも周知するように「教育環境の充実」と「徹底した省エネ」を目指して、快適な学習環境と最新のエコ設備を整えています。



百年館全景



百年館3階



百年館5階



ラーニングラウンジ



SDGsステッカー

> ACADEMIC MOOK

東洋経済SDGs大学特集

2020年7月、東洋経済新報社から「東洋経済ACADEMIC」の「SDGsに取り組む大学特集」第2弾として「ポスト2030に向けた知と実践」が公開されました。その中の「未来を創る大学の実践」コーナーにおいて、持続可能な社会を築くべく多様な個性を生かした取り組みを進める全28大学の1つとして、前号につづき今号でも、目白大学・目白大学短期大学部における取り組みが紹介されています。本学のコンセプトは「SDGsのローカライゼーションを推進し、持続可能な社会づくりの担い手を育てる」としました。建設されたばかりの新校舎「百年館」の環境に配慮した設備の紹介、SDGsの普及に向けた全学的・組織的な取り組み、そして本学らしい(育てて送り出す)教育活動やエコ活動、地域連携活動に焦点を当てた、学生たちのユニークな(とんがった)取り組みとして、SDGsの達成につながる6つの実践事例を取り上げています。



東洋経済SDGs大学特集

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- 集中制御空調システム
- 高効率型空調機
- ヒートポンプ式給湯器
- 氷蓄熱システム
- LED照明
- 人感センサー
- 昼光センサー
- インバーター式蛍光灯
- ソーラーシステム

緑化対策

- 樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング

省資源対策

- ごみの分別
- 中水道システム
- 傘のシェアリングサービス
- 再生紙の利用

その他の対策

- 遮熱フィルム
- UVカット窓ガラス
- Low-E複層ガラス
- 全熱交換機
- 重力換気窓
- 目白学園電気予報
- グラウンドの砂埃防止
- 喫煙所以外の全面禁煙



太陽光発電



高効率空調機



氷蓄熱システム



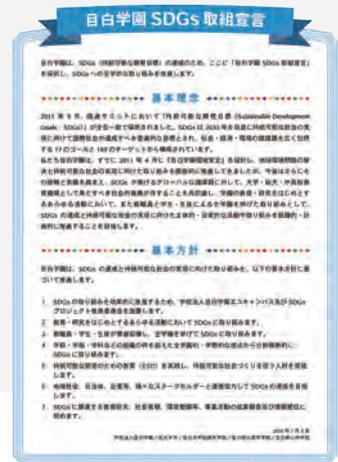
屋上緑化



中水道システム

目白学園SDGs取組宣言 > SDGs DECLARATION

2020年7月8日、『目白学園SDGs取組宣言』が採択されました。目白学園では、既に2011年4月1日に『目白学園環境宣言』を採択し、地球環境問題の解決と低炭素社会への貢献に向けた全学的エコキャンパスづくりの取り組みを推進してきました。今後はさらにその経験と実績を踏まえ、SDGsが掲げるグローバルな諸課題に対して、大学・教育機関として果たすべき社会的責務が存することを再確認し、学園の教育・研究をはじめとするあらゆる活動において、また教職員と学生・生徒による全学を挙げた取り組みとして、SDGsの達成と持続可能な社会の実現に向けた主体的・自覚的な活動や取り組みを組織的・計画的に推進することを謳っています。『目白学園SDGs取組宣言』は、本学SDGsサイト(<https://www2.mejiro.ac.jp/sdgs/>)でも公開されています。



> SDGs ACTIVITIES

SDGs 活動

2020年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、全面遠隔授業と課題活動自粛という制約下、アクティブラーニングやボランティア活動、地域連携活動や社会貢献を軸とする「ECOアクション」や「SDGsプロジェクト」は、これまでに経験したことのない逆風にさらされました。そんなコロナ禍でも活動を諦めず、感染予防に努めながら前向きに積極的に取り組んだ学生たちの主体的・社会的な活動をピックアップして、ごく一部ではありますがその様子をご紹介します。

4 身の回り 教育を かんたんに **SDGsに貢献する買い物活動の推進**



人間学部児童教育学科の石田ゼミでは、SDGsに貢献するためには消費行動が重要と考え、環境に配慮した買い物をするという視点から、計画的な買い物、環境ラベルの付いた商品や地産の食材を選択し購入することへの普及啓発活動を行いました。その活

動として第一に、大学生向けに『地球を救う買い物を～日常に工夫して～』というテーマのプレゼンテーション動画をまとめ、大学のホームページに掲載しました。第二に、小学生向けに『買い物エコ柱になろう!』という教材を作成し、江東区立第四砂町小学校4年生を対象にオンライン授業を実施しました。第三に、その授業教材を動画にし、「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に出展し、全国の子どもたちに視聴してもらいました。子どもたちから、「計画的に買い物をするようになった」「環境ラベルを意識するようになった」との報告もあり、活動の成果を上げることができました。

3 学びの心で 健康と 食生活 **食を通じた地域交流活動**



地域研究と食教育、それぞれの専門性を生かした社会学部社会情報学科の星・廣重合同ゼミでは、食の面からの地域貢献・社会連携活動を実施しました。コロナ禍により対面での活動が制限される中、学生たちがオンラインで「自分たちに何ができるか」を話し

合った結果、「夏休みの小学生が簡単に作れるレシピ集を作ろう!」と、役割分担をして作成しました。メニュー構成は、低学年の児童も包丁や火を使わず、安全に一人で作ることができ、また夏バテの原因や対策にも配慮するなど、保護者の方も一緒に楽しめるような献立を検討しました。冊子は、写真やイラストを多く利用して小学生が取り組みやすくなるよう工夫し、漢字にはすべてルビを振りしました。完成した冊子は、目白大学のある東京都新宿区内の小学校、児童館、スーパー、駅構内、地域活動に取り組む諸団体や、震災復興活動で関係する宮城県気仙沼市の小学校やNPOでも配布していただきました。

12 つくさる責任 つくら責任 **SDGsの普及活動と九州の復興支援**



社会学部社会情報学科の柳田ゼミでは、SDGsを若者に普及することを目的としたプロジェクトを行っています。これは近年需要の高まる携帯用ストーリーに着目し、海洋汚染などの環境問題に配慮した竹ストローを製作・販売するというものです。ゼミでは

様々な授業で学んだ学問(理論)を社会的課題へと結びつけるアクティブラーニング(PBL型教育)を積極的に導入しています。メンバーの中には聴覚障がいのある学生も所属しており、コロナ禍における遠隔活動という慣れない環境の中で、企画・運営・対外交渉など、自ら全ての活動を行いました。その結果、竹ストローの製作において熊本県PRキャラクター「くまモン」の使用許諾をいただき、資金はクラウドファンディングにより調達することに成功しました。竹ストローの売上金は、度重なる災害に見舞われている九州の復興支援として、「くまモン募金箱」に全額寄付するべく活動を続けています。

12 つくさる責任 つくら責任 **食品ロス削減のために私たちができること**



社会学部地域社会学科の飛田ゼミの学生たちは3年連続、一般社団法人新宿ユネスコ協会の青年会員となり、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟より青少年ユネスコ活動の助成を受けて、2020年12月8日に新宿キャンパス百年館にて市民向けの「SDGsアクション

フォーラム～食品ロス削減のために私たちができること～」を開催しました。フォーラムの運営は学生たちが主体となり、「食品ロスの現状」「世界の食糧問題」「国・自治体・市民団体の取り組み」「小売・外食産業の取り組み」「学校と家庭での食品ロスの取り組み」に関する研究発表を行いました。講師による「食品ロスに関する学生アンケート調査から～遠隔授業の副産物」と題した調査報告もあり、これを受けてフォーラム参加者との間で、活発な質疑応答と意見交換を行い、落合第二地区協議会の皆様をはじめ、地域との連携や世代を超えた交流、パートナーシップの意義を体験的に学ぶことができました。

> SDGs SUBJECTS

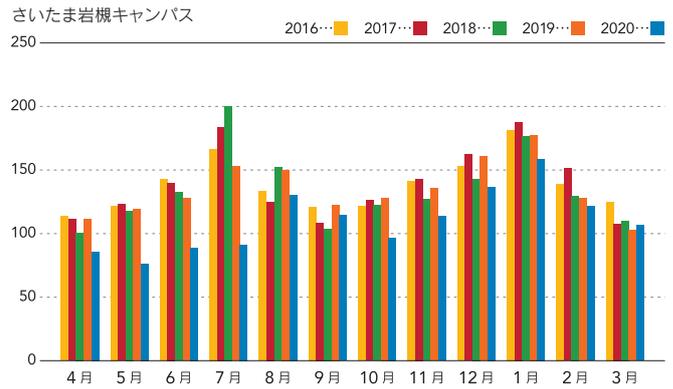
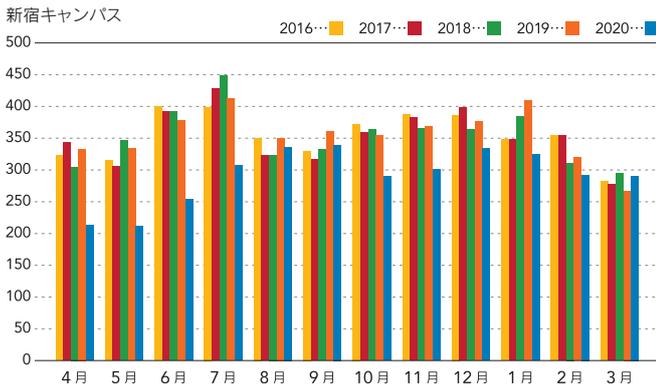
目白大学SDGs関連科目

目白大学全学部全学科及び短期大学部全学科の共通科目及び専門教育科目の中からSDGsに関連する科目またはSDGsの各ゴールに関連がある科目を、各学部学科の選定に基づきリストアップし、本学SDGsサイトにおいて「目白大学・目白大学短期大学部SDGs関連科目」として公開しています(<https://www2.mejiro.ac.jp/sdgs/subject.html>)。カリキュラム等の関係で他学部他学科の科目履修が難しい場合もありますが、SDGsに関する効果的・集中的な学修・履修のための参考資料としてご利用ください。現在約150科目が掲載されていますが、選定科目は毎年見直し年度初めに更新されます。

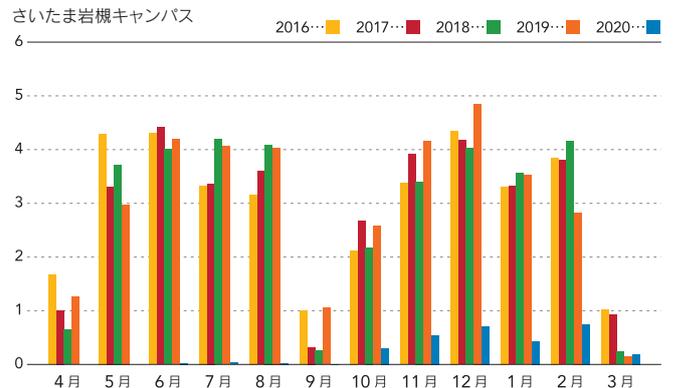
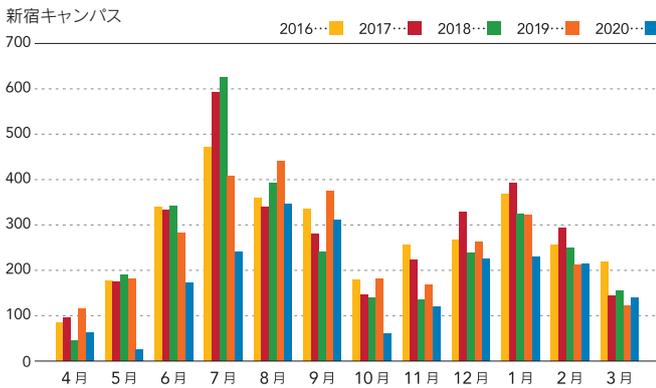


環境負荷データ > DATA

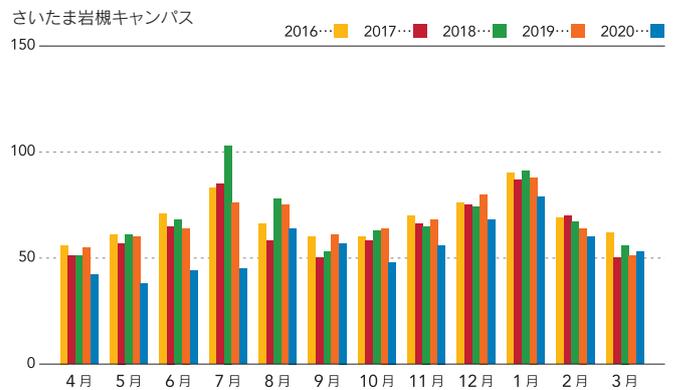
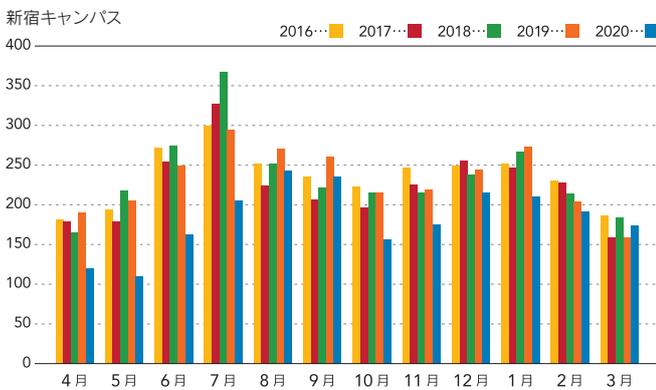
■ 電気使用量 (単位:千kwh)



■ ガス使用量 (単位:百m³)



■ CO2排出量 (単位:t)



■新宿キャンパス 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
 ■さいたま岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222
<https://www.mejiro.ac.jp>



設置者	学校法人目白学園 (理事長 尾崎 春樹)	
目白大学	創設年	1994年 目白大学創設
	学生数	5,685名(2021年5月1日現在)
	設置学部・学科	心理学部 心理カウンセリング学科(2020年4月開設) 人間学部 心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科 社会学部 社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科 メディア学部 メディア学科(2018年4月開設) 経営学部 経営学科 外国語学部 英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科 保健医療学部 理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科 看護学部 看護学科 大学院 国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科
	目白大学短期大学部	創設年 1963年 目白学園女子短期大学創設(2000年目白大学短期大学部に名称変更)
		学生数 429名(2021年5月1日現在)
		設置学科 ビジネス社会学科/製菓学科/歯科衛生学科(2019年4月開設)

